

子規記念博物館における購入資料の概要 (正岡子規関連資料 7件 20点)

松山市では、令和6年10月に正岡子規やその門人に関連する資料7件20点を購入し、松山市立子規記念博物館に収蔵しました。今後、これらの資料についてさらに調査・研究を進め、常設展示室や特別企画展・特別展で一般公開する予定です。

■ 資料の内容と意義

(1) 子規筆「俳人ヲ戒ムルノ書」明治29年秋頃 折本 1点

子規が愛媛県周桑郡三芳村の一舟という俳人に宛てて書いた文章の自筆稿。俳句は榮譽や自己顕示欲のためにするべきものではないことなど、文学に対する姿勢を論ずる内容が記されています。柳原極堂『友人子規』によれば、一舟は『海南新聞』募集俳句欄の投句者で、編集者の極堂を通じて子規に何度も選句揮毫を求めましたが、子規はこれに怒り、揮毫の代わりにこの文章を送ったといっています。本資料には子規や門人らの句稿、中村不折の戯画なども合装されています。

本資料は昭和9年に雑誌『改造』で「俳人ヲ戒ムルノ書」と題して公表され、後に講談社版『子規全集』第4巻に収録されました。子規の句は明治29年秋のものですが、一部に講談社『子規全集』未掲載の句も含まれています。

(2) 子規の内藤鳴雪あて書簡 明治29年11月3日 軸幅 1点

子規が門人の内藤鳴雪に宛てた書簡。見舞いを受けた礼を述べ、病状を伝えるほか、原稿2枚を送付すること、2日後に子規庵で集まりがあることなどを伝えています。また末尾に俳句1句を添えています。

本資料は講談社版『子規全集』及び増進会版『子規選集』に掲載されていません。末尾の俳句は講談社版『子規全集』第2巻に明治29年秋の句として掲載されています。

(3) 子規選句稿「手まぐらの巻」明治25年8月2日 和綴 1点

子規が友人の武市庫太の依頼により他者の俳句を選句した際の選句稿。50句が選ばれ、末尾に子規自身の俳句も記されています。武市は伊予郡永田村（現伊予郡松前町）の人で、衆議院議員などを務め、子規とは旧知の友人でした。子規はこの前年にも武市から永田の天神祭での選句を依頼されており、この「手まぐらの巻」はその第2回と考えられます。俳句は永田の村人の作と思われます。

講談社版『子規全集』第5巻収録。昭和41年の子規・漱石・極堂生誕100年記念展出品。

(4) 子規の水落露石あて書簡 卷子2本 4点

① 子規の水落露石あて書簡 明治30年5月30日 1点

子規が大阪の門人、水落露石に宛てた書簡。露石から送られた短冊に短歌を揮毫していたところ、短冊が尽きてしまったので再度送付してほしい旨を記しています。

講談社版『子規全集』第19巻収録。

② 子規の水落露石あて書簡 明治31年2月7日 1点

子規が水落露石に宛てた書簡。露石が俳句の道を諦めようとしているとの報を聞き、俳句は少しずつでもよいから続けたらどうかと説得しています。

講談社版『子規全集』第19巻収録。

③ 子規の水落露石あて書簡 明治30年9月28日 1点

子規が水落露石に宛てた書簡。露石から送られた句会稿は出来が悪いので新聞には掲載しない、近頃は各地の結社から句会稿が送られてくるが出来の悪いものがあるので、今後は自分が全て事前に検閲したい等と述べています。子規派の結社が全国に広まる中、子規のもとには各地から句会稿が送られていましたが、その対応に子規が苦慮していた様子がうかがえます。

講談社版『子規全集』第19巻収録。

④ 子規の水落露石あて書簡 明治32年12月14日 1点

子規が水落露石に宛てた書簡。病室の障子をガラス戸に替えて暖くなり快適に過ごしていること、子規庵の蕪村忌句会のために蕪を送ってもらったことの礼、また蕪村忌に記念撮影したいこと等を述べています。末尾にはガラス戸を詠んだ俳句5句を記しています。

講談社版『子規全集』第19巻収録。

(5) 子規の石井露月あて書簡 ほか 軸幅1本 4点

① 子規の石井露月あて書簡 明治31年3月4日 1点

子規が門人の石井露月に宛てた書簡。急ぎ「竹乃里歌」から歌を選抜し、印を付けてほしい旨を記しています。「竹乃里歌」は蕪本「竹乃里歌」のことで、当館所蔵の同資料を確認すると、露月が選抜したと思われる歌に「ろ」の印が付されています。

講談社版『子規全集』第19巻収録。

② 内藤鳴雪の島田豊三郎あて書簡 明治37年3月28日 1点

子規の門人の内藤鳴雪が島田豊三郎（五空）に宛てた書簡。五空は秋田県の俳人・実業家で、秋田で俳誌『俳星』を創刊し、子規派を地方から支えました。本資料でも『俳星』に掲載するための俳句のやり取りについて記されています。

③ 高浜虚子の安藤和風あて書簡 明治43年5月25日 1点

子規の門人の高浜虚子が安藤和風に宛てた書簡。和風は秋田県の俳人・新聞経営者で、新聞『秋田魁新報』の拡充に貢献しました。

④ 河東碧梧桐の田口謙蔵あて書簡 明治40年9月24日 1点

子規の門人の河東碧梧桐が田口謙蔵に宛てた書簡。田口は秋田県の俳人・新聞人・郷土史家で、碧梧桐や虚子らと親交がありました。本資料では、碧梧桐が秋田県大曲を訪れた際に世話になったことへの礼を述べています。

(6) 子規筆「第六回文科大学遠足会の記」ほか 和綴本 8点

- ① 子規筆「第六回文科大学遠足会の記」
- ② (付属資料)「第六回文科大学遠足会記事並会計」
- ③ (付属資料)「第八回文科大学遠足会記事」
- ④ (付属資料)「文科大学第八回遠足会回文」
- ⑤ (付属資料)「第九回文科大学遠足会記事及会計」

- ⑥（付属資料）「文科大学第十回遠足会紀事」
- ⑦（付属資料）「文科大学懇親会記事及会計簿」
- ⑧（付属資料）教授名書付ほか

子規が学生時代、明治 25 年 11 月に参加した帝国大学文科大学の妙義山（群馬県）への遠足会について記した紀行文の自筆原稿。遠足会の幹事だった友人の菊池謙二郎の依頼で執筆したものです。付属資料となっている他の遠足会の記録と一括で保管されてきたものと考えられます。従来は昭和 21 年に赤城書房から出版された復刻版でのみ知られていました。

講談社版『子規全集』第 13 巻収録。

（7）子規編「八千八声」 和綴 1 点

子規がホトトギスを題材とした様々な文学作品を抜き書きして作成した草稿。もとは上・下 2 冊あり、本資料はそのうちの上巻。ホトトギスに関する漢詩・和歌・小説などを収めています。

改造社版『子規全集』第 2 巻収録。なお下巻は解本されて散逸しており、当館でも軸装された断片を収蔵しています。

■ 購入した日

令和 6 年 10 月 21 日（月）

■ 購入額

1,650 万円 ※7 件 20 点

■ 購入先

愛媛県内の業者および個人

■ 今後の一般公開について

今回の資料は、いずれも子規やその門人に関連するもので、従来の文献に掲載されていないものも含まれています。（1）と（4）②の資料 2 点は、11 月 1 日から常設展示室で一般公開します。その他の資料は今後さらに調査研究を進めた上で、特別企画展・特別展や常設展示室「特集展示」コーナーなどで一般公開を行うなど、永続的な活用を図る予定です。